

学校から美術館に鑑賞を申し込むにはどうすればいいですか？



① ふくやま美術館までお電話ください。

TEL : 084-932-2345 (火~日曜の8:30~17:00)

② 団体観覧申込票にご記入のうえ、メールまたはFAXにて提出してください。

メール : art@city.fukuyama.hiroshima.jp FAX : 084-932-2347

←団体観覧申込票

- ふくやま美術館ホームページ（下記URL）よりダウンロードしてください。

<https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/fukuyama-museum/>

左側の **団体観覧のご案内** をクリック



- 学校名、観覧日、人数、学年、ガイドの有無など必要事項を記入し、メールまたはFAXにて提出してください。その後、内容確認の連絡をさせていただきます。
- 申込み完了後、当日の日程、鑑賞方法（内容）を確認するため、美術館担当者が電話で事前にお尋ねをいたします。

③ 「観覧料減免申請書」を美術館に提出してください。

- 小・中学校の先生が授業の一環として観覧する場合、事前に学校長から申請書を提出していただくと観覧料免除となります。（高校生以下の観覧料は無料）
- 申請書は、ふくやま美術館ホームページよりダウンロードしてください。

※展示室内の状況(混雑時)などによっては、ワークシートをつかった別の鑑賞を提案させていただくこともあります。
 ※お申し込み日程については、別紙の団体受入可能日をご覧ください。
 ※受入については、既に他団体の対応予約が入っている場合や、行事などによって日程を調整させていただく場合もあります。
 ※鑑賞方法については、『10歳の君へ よこそ美術館プロジェクト』と、この鑑賞プログラムとは異なります。

◎ふくやま美術館

〒720-0067 福山市西町二丁目4番3号
 TEL 084-932-2345 FAX 084-932-2347
<https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/fukuyama-museum/>

休館日 月曜日(祝休日の場合は開館、その翌日は休館)、年末年始
 開館時間 9:30~17:00

観覧料 所蔵品展／一般310円(250円) ※()内は有料20名以上の団体料金
 ※特別展の観覧料は別に定めます。
 ※特別展・所蔵品展ともに高校生以下無料。

交通アクセス

- ・山陽自動車道 福山東インターより車で20分
- ・JR福山駅福山城口(北口)から西へ400m

駐車場

- ・市営駐車場(68台)
 - ・バス駐車場(5台)
- ※申込み時にお伝えください。



来館にあたってのご注意

- ・筆記具は「鉛筆」を使ってください。ノートなどに書き込む場合は、壁や展示台にあてて書き込まないようにしてください。
- ・撮影は、受付に申し出て「腕章」を着用いただきますと可能です。ただし、フラッシュ、三脚は使用できません。
- ・事前に「作品にはさわらない」ことを児童・生徒にお伝えください。

2023年度 ふくやま美術館 美術鑑賞推進事業
 たのしい鑑賞プログラム

〈申込のご案内〉



ジョヴァンニ・セガンティーニ《婦人像》1883~84年 ふくやま美術館蔵





美術館で美術作品を鑑賞しましょう！

この鑑賞プログラムは、児童・生徒が作品を楽しく鑑賞する中で、「美術作品と向き合う心をはぐくんで欲しい」と願って実施するものです。

学習指導要領の目標は、「造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す」ことです。また鑑賞の指導については、「地域の美術館などを利用したり、連帯を図ったりする」こととされています。

作品との素敵な出会いが、児童・生徒に新たな「発見」や「感動体験」をもたらし、貴重な心の財産となるでしょう。



美術館には、どんな鑑賞プログラムがありますか？

1. 対話型の鑑賞（観察力・コミュニケーション力を高めるコース）

児童・生徒と、学芸員・ボランティアが対話を通じて、ひとつの作品をじっくり鑑賞していく方法です。この鑑賞方法では、児童・生徒がそれぞれ感じたことを考えて、言葉にすることを促します。作品を細かく見る観察力や思考力のほか、コミュニケーション能力の向上も図ることができます。

※実施時は、10名程度のグループに分かれて鑑賞します。

2. ガイド形式の鑑賞（知識・教養を深めるコース）

展示されている作品やその作家に関する説明を、学芸員やボランティアが行います。作品が制作された背景や、作者の人生を知ったうえで鑑賞すると、作品の異なる一面が見えてくることでしょう。児童・生徒の知識を深め、また造形の新たなレパートリーを増やしてくれる良い機会となるでしょう。

■実施場所：企画展示室、常設展示室、書道美術館

■対象：小学生・中学生

■所要時間：約30分～60分

3. 施設見学（美術館の役割を学ぶコース）

美術館に関する短時間の説明と、施設（バックヤード等）のご案内をします。

■実施場所：美術館・書道美術館 ■対象：小学生・中学生 ■所要時間：約30分

4. 屋外モニュメント

ふくやま美術館のモニュメントマップを使います。美術館周辺のモニュメントを回って、シールを貼り、クイズに答えていく体験型の鑑賞プログラムです。

■実施場所：屋外 ■対象：小学生・中学生 ■所要時間：約60分

※雨天の場合は、実施場所が変更になることもあります。



いつ美術館に行くのがいいですか？

案① 季節ごとに、テーマの違う様々な特別展があります。目的に合わせてお選びください。

2023年度 特別展

期間	内容
春 4月8日(土) - 6月4日(日)	近代美人画 百花繚乱 —松園、清方、深水、夢二— 培広庵コレクションを中心に 女性美をモチーフとした近代日本画の「美人画」は、江戸時代の浮世絵の流れをくみ、大正期から昭和初期に最も輝きを放ちました。培広庵コレクションはまさにこの黄金期の優品を集めたもので、「美人画」といえばまず名前があがる上村松園、錦木清方、伊東深水、竹久夢二らの作品を中心に、まさに百花繚乱とつたわられるべき魅力に満ちています。その魅力を堪能できる選りすぐりの約90点による、華麗で優美な世界をどうぞ堪能ください。
夏 7月15日(土) - 9月18日(月・祝)	開館35周年記念特別展Ⅰ ようこそ！遊んで学べる絵本の世界へ！ 迷路絵本 香川元太郎の世界展 絵本作家・イラストレーターとして活躍する香川元太郎の「迷路絵本」と「歴史考証イラスト」が並ぶ原画展です。迷路絵本には、歴史や動物、宇宙などさまざまなテーマが、かくし絵やクイズとして描かれています。歴史考証イラストは、歴史の舞台となった日本全国の城郭を、築城当時の姿で緻密に描き出します。展示作品約200点、迷路体験コーナーが出現するほか、新作「福山城」もお披露目となりますので、お楽しみに！
秋 10月7日(土) - 12月10日(日)	開館35周年記念特別展Ⅱ 芸術家たちの南仏 —ピカソ、マティス、シャガールたちの楽園と逃避 地中海に面し、豊かな自然に囲まれた南フランスは、20世紀を代表する巨匠パブロ・ピカソやアンリ・マティス、マルク・シャガールをはじめ、多くの芸術家を惹きつけた地域として知られています。本展は、20世紀の芸術を育んだ場としての南仏に着目する、日本初の展覧会です。お互いに刺激を与え合った芸術家たちの交流、またそのまばゆい光の下で生み出された多様な表現や技法に着目し、国内所蔵作品を中心に、およそ30作家の約100点の作品を展覧します。
冬 2024年 2月18日(日) - 3月27日(水)	正宗十哲 —名刀匠正宗とその弟子たち— 日本刀史における巨匠、五郎入道正宗は、相州伝の作風を芸術の域まで昇華させた名工として知られています。正宗の出現以降には、各地で「正宗十哲」と呼ばれる刀工が活躍し、全国的に相州伝が波及していきました。本展覧会では、国宝7点、重要文化財9点を含む約40点を展覧し、新藤五国光や行光など正宗の先人から、正宗に私淑したとされる刀工たちまで、正宗という巨匠を軸として、古刀期における相州伝を概観していきます。

案② 所蔵品展も合わせて鑑賞ください。

所蔵品展では、ピカソやマルク・シャガールをはじめ、日本近代を代表する画家・岸田劉生が愛娘を描いた《麗子十六歳之像》、イタリア未来派のジャコモ・バッラ《輪を持つ女の子》といった色彩豊かな作品を年間を通してご覧いただけます。

児童・生徒が成長する過程で、繰り返し見ることのできる美術館の所蔵品は、美術鑑賞教育に好適といえましょう。

※都合により展示されていない作品もあります。

2023年度 所蔵品展

期間	内容
《春季》 4月6日(木) - 6月25日(日)	大正アート・デモクラシー —個性の時代の美術 大衆文化や個人主義など成熟した文化が開いた大正時代。本展では、大正口マンを代表する竹久夢二や「個性」の時代を象徴する岸田劉生の作品など、様々な表現の作品を通して、この時代の多様性を探ります。
《夏季》 6月29日(木) - 9月3日(日)	ワレモノ注意！ —美術の世界の「ワレモノ」たち 「ワレモノ注意」といえば、ガラス瓶などを宅配便で送るときにおなじみの言葉ですが、美術作品のなかには、あえて割ったり、割れていることを生かしたりしたものがあります。本展では、「割れ」をキーワードに、様々な「ワレモノ」を展覧します。
《秋季》 9月7日(木) - 12月10日(日)	私と作者の「あいだ」 —作品からのメッセージ 作品を見るとき、私たちは、目に映らない要素をも想像によって感じ取っています。たとえば、時の流れや人の心の動き、描かれた風景の中に響く音。本展では、こうした形なきものを「私と作者の「あいだ」」に生じる存在と位置づけ、作品について思索します。
《冬季》 12月23日(土) - 2024年3月24日(日)	人物画にこめられた思い —描く人と描かれる人 古今東西、風景画や花鳥画とともに、主要なテーマとして描かれて続けてきた人物画。作品に込められた意味や思いに寄り添うことが、比較的容易にできるのが人物画と言えます。本展では、多様な人物画を展覧し、その魅力に迫ります。

※特別展・所蔵品展の会期・内容につきましては、都合により、急遽変更をさせていただく場合もあります。最新情報はふくやま美術館ホームページなどでご確認ください。